

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 工業・商業系列等を持つ総合学科として、多様な進路実現を可能にし、生徒が夢を実現できる学校、地域・保護者から厚く信頼される学校をめざす。
1. 「探そう 東総 明日の自分！」をキーワードとしてキャリア教育・職業教育を力強く推進する学校。
 2. 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を目標に授業で鍛える学校。
 3. 「社会で愛され必要とされる人間」になるため、学校・家庭・地域等が一体となり、教育活動を展開する学校。
 4. 「目標達成に向け意欲的に取り組む学校運営体制」を確立し、府民の期待に応えられる学校。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
 - (1) 総合学科の特長を生かした実業教育・キャリア教育を推進し、3年間の学びで総合的な学力を育てる。
 - ア、3年間の体系的なキャリア教育プログラムを発展させる。
 - イ、外部人材・外部組織の積極的な活用やインターンシップの拡充により、実業教育の充実に努め、資格取得を促進する。
 - ウ、四年制大学の公募制入試・一般入試を視野に入れ、進学指導を充実させる。
 - *進路実現については、進路未決定率（平成28年度9.7%）を3%ずつ引き下げ、平成31年度年には0%以下をめざす。
 - 4年制大学進学者数（平成28年度35名）を毎年10%以上引き上げ、平成31年度には50人以上をめざす。
 - (2) 学ぶ姿勢を確立し、基礎・基本の習得を中心に「確かな学力」の育成に努めるとともに、コミュニケーション能力の育成をめざす。
 - ア、学校経営推進費を活用して「TRY ルーム」を創設し、グループ学習を充実させ、生徒の「言葉と感情のコミュニケーション能力」を育成することで、本校のキャリア教育をより進化させる。
 - *平成28年度の進路決定率90.3%を平成31年度には100%にする。
 - (3) 「魅力ある授業づくり」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
 - ア、授業改善プロジェクトチーム（JPT）を組織し、本校のめざす授業について考察し、教員相互の授業見学の機会を促進させる。
 - *学校教育自己診断の「学習指導に関する」項目の生徒評価（平成28年度64.7%）を毎年3%ずつ引き上げ、平成31年度には、70%以上にする。
 - イ、資格取得プロジェクトチーム（SPT）を組織し、多様な資格の情報を提供し資格取得のための講習や補講を行う。
 - *資格取得の延べ数（平成28年度247件）を、毎年5%以上増やし、平成31年度には、320件に増やす。
 - 2 社会とつながる力（社会人基礎力）の育成
 - (1) あいさつ、服装、遅刻、清掃などの指導に全教員で取り組み、基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を育む。
 - (2) 体育祭・文化祭等の行事を通して、クラス活動や生徒会活動の活性化をはかる。
 - (3) 部活動の種類と質を充実させるとともに、ボランティア活動の機会を増やす等、生徒力のより一層の活性化をはかる。
 - ア、部活動活性化プロジェクトチーム（BPT）を組織し、部活動の活性化をはかり、地域の行事等に積極的に参加する。
 - *平成31年度の目標値を平成28年度に達成した。平成31年度までの3年間、引き続き中退率を1.0%以下にする。（平成28年度中退率0.9%）
 - *クラブ加入率（平成28年度47%）を毎年3%ずつ増やし、平成31年度には55%にする。
 - 3 地域連携と広報活動の充実
 - (1) 保護者面談や適宜の家庭訪問によって家庭との日常的な信頼関係を築くとともに、メルマガによって学校情報の確実な伝達をめざす。
 - (2) 中高連絡会や中学校訪問により生徒情報を把握して指導に生かすとともに、平野区や子供相談センター等と連携し生徒の就学保障につとめる。
 - (3) ホームページの更新、オープンスクール等の充実、近隣の小中学校への出前授業の実施等により、学校の情報や魅力の発信に努める。
 - (4) 地域公開講座・PTA バザー等を継続して実施し、地域行事等への教職員と生徒の参加を積極的に支援する
 - ア、広報プロジェクトチーム（KPT）を組織し、中学校の教員、中学生、保護者や地域への効果的な広報活動について見直し、検討する。
 - *学校説明会・オープンスクールへの参加者（平成28年度590人）を毎年3%ずつ増やし、平成31年度には、平成28年度比10%増やす。
 - 4 生徒を支える校内体制の充実
 - (1) 首席連絡会や運営委員会、職員会議等の各種会議の連携を強化し、分掌・学年が情報を共有して迅速に課題解決にあたることのできる体制を整える。
 - (2) SC や支援教育コーディネーターを活用し、教育相談委員会・生徒支援委員会との連絡を密にし、各学年との連携体制を機能させる。
 - *学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価（平成28年度50.0%）を毎年5%ずつ増やし、平成31年度には65%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成29年12月実施分〕	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は授業改善プロジェクトチームを中心に本校のめざす授業について考察し、「魅力ある授業づくり」をめざして授業改善に組織的に取り組んだ。学習指導に対する生徒の肯定的な回答の平均値が昨年度の64.7%から6.5%増加し、今年度は71.3%となった。一定の成果をあげることができた。 ・一方で、「教え方の工夫・改善をしている」に対する肯定的な回答が、教員では81.5%であるのに対して、生徒では68.6%となっている。約13%の差がある。生徒の実態を把握し、生徒に伝わるように改善策について全体で取り組む必要がある。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を支える校内体制の充実をはかるため、教育相談体制の整備に重点 	<p>第1回（7/14）</p> <p>○平成29年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会とつながる力（社会人基礎力）の育成 2年位前から生徒が変化してきた。中学校の正門で大きな声であいさつしてくれるようになった。また、生徒が主体的に行事等を運営できるようになってきている。 ・生徒を支える校内体制の充実 各年次の特徴がでていて、ベテランと若い先生のバランスがよくとれている。 ・家庭との日常的な信頼関係の構築 PTAと生徒が直接触れ合える機会を作りたい。 ・生徒のニーズに合った授業の実践 「主体的・対話的で深い学び」の実践は、企業での人材育成の面でとても重要である。校内でもぜひ進めてほしい。

的に取り組んだ。教育相談体制の整備についての教員の肯定的回答は昨年度から8.0%増加し、83.9%となった。また、「困っていることについて真剣に対応してくれる」についての生徒の肯定的な回答も昨年度から11.1%増え、75.0%となった。「先生は生徒の意見を聞いてくれる」についての生徒の肯定的回答も昨年度から6.7%増え、73.4%となった。生徒と教員の信頼関係が築かれている。

・一方で「学校生活についての先生の指導には納得ができる」の生徒の肯定的な回答は昨年より2.1%増え、58.3%となったが、他の項目に比べて低い。今後、規律を保ちながら教職員全体で協力して生徒指導にあたる体制づくりにさらに取り組む必要がある。

・進路選択に関する項目では、生徒の肯定的な回答は昨年より13.3%増え82.4%となった。教員の肯定的な回答も82.7%と高く、丁寧な進路指導が行われている。

・一方で、「系統的なキャリア教育を行っているについて」教員の肯定的な回答が昨年より11.6%減少し、70.8%となった。生徒現状に合った指導ができるよう、キャリア教育体制を見直す時期がきている。

【学校運営】

・首席の役割に各分掌間・各年次間の調整を取り入れ、年次主任会議を定例化したことで、今年度の重点項目であった、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」の教員の肯定的回答が、昨年より16.1%増え、66.1%となった。「各種会議が意思の疎通や意見交換の場として機能している」の教員の肯定的回答は昨年より4.4%増えているものの、52.7%と他の項目に比べて低い。すべての教職員が自分の意見を言えるよう、さまざまな場面で協働し、チーム学校として取り組みたい。

・「事故、事件、災害等に対する迅速な対応と役割分担の明確化」についての教員の肯定的な回答は昨年より12.4%増え、69.1%となった。学校安全・危機管理について学校全体で取り組む体制を今後さらに維持していく。

○学校経営推進費について

・学校経営推進費を活用して「TRYルーム」を整備することで、ICTを活用した授業やアクティブラーニングの実践、キャリア教育、資格支援センターとしてしっかり活用して生徒の進路実現につなげてほしい。

第2回(9/22)

○授業を見学して

・子どもたちは、大学・専門学校等を卒業しても、その後は毎日がプレゼンの連続となる。今日見学した授業のように、人前でしゃべれる能力を身につけることが大事である。

・元工業系の学校ということもあり、ICT機器を積極的に取り入れた授業を行っている。生徒に学ばせるために役立っていると思う。

・自ら考える力を養っていくことは非常に大事。社会人にとって大事なことは、まず自分で考える力である。ぜひ、こういう力をつけさせてやってほしい。

第3回(H30.2/16)

○授業改善の取り組みについて

・授業改善プロジェクトチームを中心に「パッケージ研修支援Ⅱ」に取り組んだことで、先生方の意識の向上がはかれたと思う。

・研究授業のビデオを見て、生徒たちが楽しそうに授業に取り組んでいるのがわかる。生徒どうして評価し合っている点も素晴らしい。

・研究授業のビデオを見ると、学習に対する生徒のモチベーションをあげるという点で、生徒たちの意欲が見られたようでよかった。

・英語の授業で、英文を読むことも重要ではあるが、今回の研究授業(英会話)は、現代の高校生に合ったスタイルであると思われる。

○学校教育自己診断について

・全般的にみて、保護者・生徒・教職員ともに肯定的回答の割合が上昇しているのは評価できる。

・「PTA活動には参加しやすい。」という質問項目への肯定的回答が低いが、PTA役員たちの取り組みが見えにくいのかかもしれない。

○平成29年度学校評価(案)について

・授業改善を含め、様々な改善がなされ、肯定感もあがっているため、この調子で頑張っていたきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) キャリア教育の推進 ア、体系的キャリア教育プログラムの充実 イ、実業教育の充実と資格取得の促進 ウ、進学指導の充実</p> <p>(2) 生徒の学力の現状把握とニーズに合った授業の実践 ア、ICTを活用した授業の推進 イ、政治的教養を育む教育の推進</p> <p>(3) 「魅力ある授業づくり」をめざした授業改善 ア、授業アンケートの有効活用 イ、教育内容の充実</p>	<p>(1) キャリア教育の推進 ア・「TRY ルーム」をキャリア教育の拠点とし、キャリア教育プログラムの取り組みを一層充実させ、生徒の進路意識の早期の向上に努める。 ・学校マネジメント予算を活用し、地元企業と連携した、キャリア教育を実践する。 ・2年次に総学チャレンジを取り入れ、進路指導を充実させる。 イ・資格取得プロジェクトチーム(SPT)を組織し、多様な資格の情報を提供し進路へつなげる。 ・長期休業中や土曜日を活用し、資格取得のための講習をさらに充実させ、質の高い資格に挑戦させる。 ・「TRY ルーム」資格支援センターとして活用し、資格取得の「見える化」を図り、取得者数を増やす。 ウ・「英数系列」の生徒に対する講習を毎日実施し、進学指導を拡充させる。 ・「TRY ルーム」を放課後自習室として開放し、進路実現に導く。 ・進学意識の向上と受験学力の育成に1年次から取り組む体制を築く。</p> <p>(2) 生徒のニーズに合った授業の実践 ア・教育産業による学力分析システム等を活用し、生徒の学力の経年変化を把握する。 ・主体的・対話的で深い学びを各教科で実践する。 ・ICTを活用した授業ができる環境を整備する。 ・年2回の公開授業週間を通して、教員相互で授業観察を行い、観察シートを提出する。 ・「TRY ルーム」での授業を常設公開授業として、教員間の授業観察の機会を増やす。 イ・生徒会と社会科が協力して、授業を組み立てる。平野区の選挙管理委員会との連携を図って実践する。</p> <p>(3) 「魅力ある授業」をめざした授業改善 ア・年2回の授業アンケートを実施し、振り返りシート・授業見学をもとに授業改善に取り組む。 イ・授業改善プロジェクトチーム(JPT)を中心に、教員同士での授業観察を促進し授業改善に取り組む。 ウ・パッケージ研修を活用し、JPTと協力して授業改善に取り組む。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率75%以上。 (平成28年度69.2%) ・就職一次試験の内定率83%以上をめざす。(平成28年度80%) ・進路未決定率7%以下をめざす。 (平成28年度9.8%) イ・資格取得延べ数300件。 (平成28年度247件) ウ・中堅大学合格者を含め、4年制大学合格者40名以上。 (平成28年度35名)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の項目生徒肯定率70%以上。 (平成28年度66.3%) ・教員の授業観察件数30件以上</p> <p>(3) ア・振り返りシートの提出率80%以上 (平成28年度71.9%) イ、ウ ・学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の項目生徒肯定率60%以上。 (平成28年度56.9%)</p>	<p>(1) ア・「フィールドコア平野」と生徒との交流会や外部企業を招いて職業についてのアクティブラーニングを実践した結果、生徒の肯定率は13.3%増加し、82.4%となった。 目標の75%を大きく上回った。 (◎) ・就職1次内定率も85%に上昇した。 (◎) ・現時点の進路未決定率は、6.7%。 (○)</p> <p>イ・「TRY ルーム」の整備が遅れている為、資格支援センターとしての活用ができていない。現時点での資格取得数は199件 (一)</p> <p>ウ・「英数系列」の生徒から龍谷大学や京都産業大学(共に外国語学部)に合格者がでるなど、現時点での4年制大学合格者37名。17名の生徒が現在受験中。 (○)</p> <p>(2) ア・主体的・対話的で深い学びを各教科で実践した。「教え方に工夫をしている」の生徒の肯定率は2.3%増加の68.6%に上昇したが目標値には達成しなかった。(△) ・管理職による授業見学の際に、他の教員の授業見学も並行して実施した。教員による授業観察件数は41件。次年度は「TRY ルーム」の活用でさらに件数を増やす。(◎) イ・1年次の各クラスで政策を決定し、平野区選挙管理委員会と連携して、学年全体で模擬選挙をおこなった。 (◎)</p> <p>(3) ア・授業アンケートと振り返りシートにより授業改善に取り組んだ。提出率第1回85.5%、第2回78.1%で平均81.8% (◎) イ、ウ・「授業はわかりやすく楽しい」の生徒の肯定率は57.6%と上昇したが目標値には達成しなかった。 (△)</p>

府立東住吉総合高等学校

<p>2 社会とつながる力（社会人基礎力）の育成</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ア、生徒指導部を中核とした指導体制の確立</p> <p>(2) 生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア、体育祭、文化祭実行委員会の活性化</p> <p>(3) 部活動の充実 ア、部活動の活性化に向けた取り組み推進</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ア・年度初めに、生徒指導事例研修を行い、校内で統一した指導体制を築く。 ・遅刻指導・頭髪指導は年間を通して計画的に実施する。 ・遅刻者への早朝指導、放課後指導の中で、「時間の大切さ」を自覚させ、遅刻常習者を減少させる。 ・清掃指導を充実させ、生徒の清掃当番を確立し校内美化に努める。</p> <p>(2) 生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア・生徒会部を独立させ、生徒と一体化した組織を作る。 ・体育祭・文化祭については生徒の主体性を喚起しつつ、地域への一般公開を実施する。 ・人権ホームルームの充実をはかる。 ・生徒の各種委員会の活性化を図る。 ・学校行事への生徒サポーターの参加を促進する。</p> <p>(3) 部活動の充実 ア・部活動活性化プロジェクトチーム（BPT）を中心に、本校の部活動について検討する。 ・体験入部期間を延長する。 ・部活動の活動や発表の「見える化」を行う。 ・運動部の中学生向け「東総カップ」を開催する。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻総数平成 28 年度比 10% 減（平成 28 年度 3422 人） ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣について」の項目生徒肯定率 75% （平成 28 年度 73.7%）</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の生徒肯定率 68%。 （平成 28 年度 63.1%） ・文化祭、体育祭に関する生徒肯定率 70%。（平成 28 年度 64.2%）</p> <p>(3) ア・部活動加入率 50% （平成 28 年度 47%）</p>	<p>(1) ア・遅刻カウント表の見える化と遅刻指導特別週間の見直しにより減少した。現時点での遅刻者数は昨年度、同時期比約 30% 減の 1981 人。 （◎） ・「基本的な生活習慣」に関する生徒の肯定率、3.0% 増加の 76.7%。 （◎）</p> <p>(2) ア・生徒会部を独立させ、生徒会室を新たに創設し活動を活性化した。生徒会活動についての生徒の肯定率は 69.0% に上昇した。 （◎） ・生徒の主体性を重視した、体育祭・文化祭を実施し、生徒の肯定率は昨年度より 13.4% も上昇し、77.6% となった。 （◎）</p> <p>(3) ア・BPT を創設して活性化に取り組んだが、部活動加入率は 49.0% にとどまった。 （△）</p>
<p>3 地域連携と広報活動の充実</p>	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係の構築</p> <p>(2) 中高連携と関係機関との連携強化</p> <p>(3) 学校の情報や魅力の発信</p> <p>(4) 地域連携の充実</p>	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係の構築 ア・学校情報の保護者への伝達の豊富化に努め、保護者の理解と協力を仰ぐ。 ・PTA 活動を組織的かつ計画的に実施する。 ・学校 HP にある、PTA 専用のタブを活用し、保護者向けの情報の発信を迅速に行う。 ・保護者懇談期間等の年間行事の見なおしを行う。</p> <p>(2) 中高連携と関係機関との連携強化 ア・出前授業やクラブ交流等を通して、地元の中学校との連携を促進する。 イ・中学校教員への出前説明会を新たに実施する。</p> <p>(3) 学校の情報や魅力の発信 ア・昨年度、ホームページを校内で更新できるシステムに刷新したので、今年度は各分掌に広報担当を配置し、ホームページを随時更新し、学校情報の迅速な発信を行う。 ・広報プロジェクトチーム（KPT）を中心に、QR コードが活用できる、学校案内パンフレットを作成する。</p> <p>(4) 地域連携の充実 ア・喜連地域包括支援センターとの定期的なミーティングを行い、連携をさらに推し進める。 ・2 年目になる、平野区との連携事業「ひらの青春生活応援事業」にさらに取り組む。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者肯定率 60% （平成 28 年度 57.3%）</p> <p>(2) ア・出前授業やクラブ交流の回数を昨年度比 20% 増。（平成 28 年度 19 回）</p> <p>(3) ア・学校説明会等参加者昨年度比 10% 増。 （平成 28 年度参加者述べ 590 人）</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断「地域連携」の項目教員肯定率 80% （平成 28 年度 78.3%）</p>	<p>(1) ア・メルマガや HP・PTA 通信により、学校情報の保護者への伝達に力を注いだ。学校行事に対する保護者の肯定率は 59.8% でほぼ目標を達成した。 （○）</p> <p>(2) ア・出前授業の案内を学校説明会の案内と一緒に送付したことで依頼が増加した。現時点での交流会回数 18 回。今後 3 回予定あり。（○）</p> <p>(3) ア・KPT を中心に学校案内パンフレットと学校紹介 DVD を刷新した。学校説明会等参加者、現時点で 571 名。（昨年同期 528 名）（◎）</p> <p>(4) ア・平野区役所、警察署、消防署と連携した講演会を実施した。地域公開講座の平野区の広報に掲載し盛況に終えた。地域連携に関する教員の肯定率 80.9% （◎）</p>
<p>4 生徒を支える校内体制の充実</p>	<p>(1) 全校的な指導体制の構築 ア、情報の共有化、見える化</p> <p>(2) 個々の生徒への支援体制の強化 ア、教育相談体制の充実</p> <p>イ、教員力の強化</p>	<p>(1) 全校的な指導体制の構築 ア・首席会議、年次主任会、分掌会議を定例化し、分掌業務において情報を共有し年次間の足並みをそろえた指導をおこなう。 ・学校掲示板を活用した、情報の共有化と見える化を行う。</p> <p>(2) 個々の生徒への支援体制の強化 ア・高校生活支援カードを活用し、SC と連携して生徒支援体制を実りあるものにする。 ・教育相談委員会を月 1 回開催し、SC の会議への参加を促す。 ・他校の実践を取り入れ、常駐体制を整備する。</p> <p>イ・経験の少ない教員の学級経営力を高めるために、教務・進路・生徒指導研修やクラスづくり研修等を実施し、教員の資質の向上を図る。 ・初任者育成チームを結成し、チームで育成する。 ・性的マイノリティについての研修等を計画的に行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員肯定率 55% （平成 28 年度 50.0%）</p> <p>(2) ア・中退率 1.0% 以下。 （平成 28 年度 6 名、0.9%） ・教育相談に関する生徒肯定率 60%。（平成 28 年度 55.6%）</p> <p>イ・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」の項目教職員肯定率 57%（平成 28 年度 52.5%）</p>	<p>(1) ア・首席による各分掌、各年次間の調整と分掌会議・年次主任会議の定例化により教職員の肯定率は 16.1% 上昇し、66.1% と目標を大きく上回った。 （◎）</p> <p>(2) ア・SC の来校日に合わせた委員会を実施し、迅速な生徒情報の共有をはかった。中退者数は現時点で 2 名。 （◎） ・教育相談に関する生徒の肯定率は、2.3% 上昇したが、58.0% にとどまった。「困っていることに真剣に対応してくれる」の項目の生徒の肯定率は 11.1% 増え、75.0% となった。 （○）</p> <p>イ・チームによる育成をおこなったが、肯定率は 52.7% にとどまった。チームの活動の見える化が必要。 （△）</p>